

【調査報告書】

大刀洗町大堰校区における水害伝承活動に関する調査研究

RESEARCH ON FLOOD DISASTER TRADITION ACTIVITIES IN THE OHZEKI SCHOOL DISTRICT OF TACHIARAI TOWN

山田 忠^{*1}, 向井 大晴^{*1}
Tadashi YAMADA, Taisei MUKAI

Abstract : In the Ohzeki school district, a residents' organization created a booklet and conducted flood disaster tradition activities in activities to teach elementary school students about flood disasters. This activity was realized by those who experienced the 1953 flood and wanted to pass on the lessons learned to future generations, and those who have never experienced a flood but are interested in floods and connected them with the school. The contents of the flood tradition was based on the 1953 flood, but was also diverse, including the history of the Tokojima Weir and irrigation channels.

Keywords : Flood disaster tradition, The 1953 flood disaster, The Ohzeki elementary school district
水害伝承, 1953 年水害, 大堰校区

1. はじめに

日本は狭い低地に多くの人が住むため、古来より洪水災害が幾度となく発生している。例えば、九州地方では筑後川流域において明治期より 20 以上の洪水災害が確認されている。これらの災害の教訓を後世に伝えるために全国各地で伝承活動が行われている¹⁾。筑後川流域では、筑後川まると博物館が 1953 年の大水害(昭和 28 年筑後川大水害、以降 28 水と称す)について、写真展や証言会を中心にした筑後川大水害を伝える会を 22 年間にわたり開催している²⁾。また、1967 年の洪水災害で被害を受けた新潟県岩船郡関川村では「えちごせきかわ大したもん蛇まつり」が羽越大水害の伝承の役割を担っていることが報告されている³⁾。このように住民による災害伝承の活動事例が報告されているものの、住民が主体となり、小学校区単位で伝承活動している研究事例の報告はまだ少ない。住民による災害対応や対策は小学校区を基本にすることが多く、小学校区における災害伝承の取り組みを明らかにすることは重要と考える。

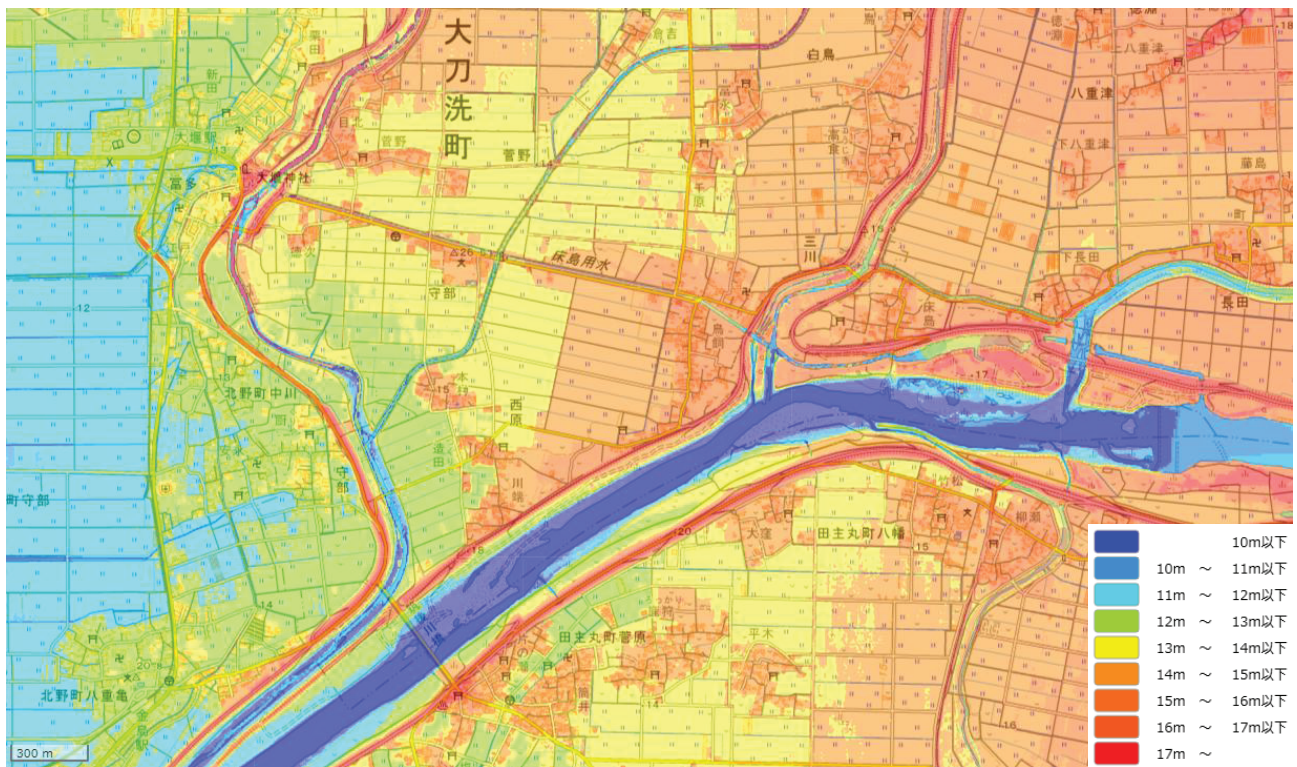
そこで、本報では、小学校区で災害伝承活動に取り組むための基礎的な知見を得ることを目的に、小学校区単位で水害伝承活動を行っている、福岡県三井郡大刀洗町大堰校区を対象に、活動主体と活動のきっかけ、伝承内容と小学生向けの活動を明らかにした。

2. 研究方法

調査対象は、28 水で家屋 650 戸中 420 戸が水没し、死者 0 人の福岡県三井郡大刀洗町大堰校区である⁴⁾。大堰校区は大刀洗町の南東に位置している。富多、菅野、高食、床島、鳥飼、西原、守部の 7 集落で構成され、人口 2150 人である(2024 年 12 月現在)。校区の地理的条件として、筑後川と支川佐田川、小石原川の合流点に位置しており、東から西にむかって標高が低くなっている(図 1)。また、大堰校区の大部分が氾濫平野であり、自然堤防に集落が発達している(図 2)。さらに、西原集落近傍の小石原川左岸堤は右岸堤よりも低くなっており、洪水時には河川堤防から水が溢れる、遊水地になっている。このような土地のため、28 水害以外にも洪水による浸水被害がたびたび発生している。近年の被害として、2012 年 7 月九州北部豪雨では床上浸水 2 戸と床下浸水 26 戸、2017 年 7 月九州北部豪雨では床下浸水 1 戸、2020 年 7 月豪雨では床上浸水 5 戸と床下浸水 21 戸、2023 年 7 月豪雨では床上浸水 3 戸と床下浸水 14 戸の住家被害がある^{5), 6), 7), 8)}。

調査方法として、11 月 22 日に大刀洗町の「28 水に学ぶ会」の主要メンバーで 28 水体験者の A 氏と B 氏、憩いの園大堰交流センタースタッフの C 氏に 2 時間にわたるヒアリング調査を実施し、大堰校区における水害伝承活動の主体と活動のきっかけ、3 氏が編集に携わった冊子「故郷おおぜき」^{4), 9), 10)}の内容と工夫点、小学生向けの伝承活動を把握した。また、1 月 10 日に小学生向けの伝承活動の詳細を把握するために C 氏に対して電話によるヒアリング調査を実施している。

*1 建築都市工学部都市デザイン工学科

図1 大堰校区の標高地形図¹¹⁾図2 大堰校区の土地条件図¹²⁾

3. 水防伝承活動の主体と活動のきっかけ

大堰校区では住民主体の28水に学ぶ会が中心に水害伝承活動を行っている。28水に学ぶ会とは、A氏やB氏などの28水体験者と28水未体験者C氏らを中心に水害を忘れないよう後世に伝承させるために2018年に結成した組織である。2024年度から住民が運営する憩いの園大堰交流センター内の一組織となった。C氏が教育支援コーディネーターであったことから28水に学ぶ会と小学校が連携し、2019年から小学生向けに伝承活動を継続的にしている。この活動は冊子「故郷おおぜき」を作成し、それにもとづいて行われていることが特徴である。

伝承活動のきっかけとして、A氏とB氏が28水の家屋などが被害を受けている写真と現在の家屋などの様子を比較するために、28水の写真をもとに現在地の写真を撮影しに行くようになったことと、大堰校区出身でも28水体験者でもないC氏が28水交流センター内に展示されている28水の写真を見て、どの場所で撮影したものかわからず、今日どうなっているか知りたいと思ったことが同時期に偶然重なってはしまった。その後、「水害の写真を風化させず水害対策に生かそう」となり、一般社団法人北部九州河川利用協会の河川利用推進支援事業に応募し、「28水に学ぶ～過去から未来へ次ぐ」が採択され、冊子「故郷おおぜき」の作成につながった。「故郷おおぜき」は28水に学ぶ会のメンバーが中心となり、校区の28水体験者10人以上への体験談の取材、家屋に残る水害の爪痕や水害当時と現在の場所を比較する写真の撮影、校区の歴史遺産である床島堰の成り立ちの調査及びその成り立ちを子供にわかりやすく漫画で伝えるために大刀洗町のボランティアガイドの大刀洗町ふるさと案内人と連携するなど5年間にわたり活動して作成された、3部作完結の冊子である。

4. 「故郷おおぜき」の内容と工夫点

「故郷おおぜき」の3部作は、各々に伝承目的がある。1作目は28水の記憶を記録として残す。2作目は28水の新たな情報と小学校の伝承活動を記録として残す。3作目は校区の歴史遺産である床島堰と用水路が構築されるまでの歴史を記録として残す。冊子「故郷おおぜき」の各部作に掲載されている水害に関する内容について掲載の有無を表に整理した(表1)。次節で詳細を述べる。

表1 冊子「故郷おおぜき」の伝承内容

	初巻	続編	完結編
28水の概要	○	×	×
28水の新聞記事	○	×	×
28水当時と今を比較する写真	○	○	×
28水のボランティア活動の写真	○	×	×
28水が残した爪痕の写真	○	○	×
28水当時の体験談	○	○	×
地形図からわかる大堰校区の変遷	×	○	○
床島堰・床島用水の概要	×	×	○
床島堰物語	×	×	○

4. 1 「故郷おおぜき」の内容

(1) 「故郷おおぜき」初巻

初巻は大堰校区の28水に関する内容が5点みられた。

1点目は、28水の概要である。28水では大堰校区の家屋650戸中420戸が水没したことや筑後川本流において21ヶ所の堤防が決壊したことが記載されている。

2点目は、28水当時と今日の場所を比較する写真である。濁流により倒壊した電柱や家屋、荒らされた田畑、流失した新川橋など当時と今日の同じ場所を比較する16地点の写真が掲載されている。

3点目は、28水で活躍したボランティアの写真である。大堰復興青年団、高校生、金島青年団など大堰校区内外のボランティアについて、集合写真をはじめ、被災家屋の片付けの写真、炊き出しの写真、堤防復旧の写真など当時の活動事項がわかる14枚が掲載されている。

4点目は、28水が残した爪痕の写真である。各集落で28水の浸水痕が残る家屋や倉庫の写真4枚が掲載されている。また、28水では舟で避難したために、家屋に保存されている舟の写真も掲載されている。

5点目は、28水当時の体験談の掲載である。校区の体験者18人の話が要約されて掲載されている。内容は、河川の水位や氾濫状況、避難行動や救援物資の支給、被災家屋の片付けや堤防復旧工事への参加など水害発生前から発生後にかけての対応になっている。

上記以外には、筑後川流域の28水の新聞記事、2012年、2017年、2018年水害の浸水や橋の崩落などの写真が掲載されている。

初巻では校区の28水の被害と災害対応がわかるようになっていた。

(2) 「故郷おおぜき」続編

続編は大堰校区の28水に関する内容が4点みられた。

1点目は、28水当時と今日の水害を比較する写真である。同一地点の写真が1枚と、近年の水害写真が、住家被害などの被害状況を整理した表とともに掲載されている。

2点目は、28水が残した爪痕の写真的掲載である。初巻同様に、家屋に残る浸水痕の写真が3枚、二又川の当時の川幅がわかる写真が1枚掲載されている。

3点目は、28水当時の体験談の掲載である。校区の体験者8人の話が掲載されていた。内容は、初巻同様に28水当時の降雨や河川水位の状況、避難行動と救援物資の支給、堤防復旧工事への参加など水害発生前から発生後にかけての対応になっている。また、1人あたりの体験談が初巻より比較的長く掲載されている。

4点目は、地形図からわかる大堰校区の変遷として、昭和30年代と昭和60年代の地図を掲載するとともに、大堰校区の水害の原因となる小石原川の写真1枚とその説明、佐田川の28水当時とその後に改修された堤防の写真1枚などが掲載されている。

上記以外には、28 水に学ぶ会の取り組みとして小学校の総合学習における水害伝承活動を、憩いの園大堰交流センターの取り組みとして、東峰村の災害伝承館の視察や、2020 年の被害状況とその後の対策工事などが掲載されている。

続編では新たに体験談を掲載するとともに、校区の水害の原因となる、筑後川増水時の小石原川への逆流を説明するなどが掲載されていた。すなわち、初巻と続編を読むことで、28 水の記録とともに校区の水害が発生しやすい土地であることがわかるようになっていた。また、28 水に学ぶ会による 28 水の伝承活動の取り組みもわかる。

(3)「故郷おおぜき」完結編

完結編は大堰校区の床島堰・用水路の歴史を中心に水害に関連する内容が計 3 点みられた。

1 点目は地形図からわかる大堰校区の変遷に関する掲載である。専門家の解説として、筑後川中流域の「等高彩色図」や地形図を使って、大堰校区の水害が発生しやすい土地であり、一方で灌漑が必要だった土地であること及び、床島堰と用水路の構築後は周辺の村々が用水路を管理していたことを掲載している。

2 点目は、床島堰・用水の概要である。床島堰と用水が造られた経緯や大堰小学校と隣の久留米市立金島小学校の校歌には床島堰の歌詞がうたわれていることが紹介されている。

3 点目は、床島堰物語である。この物語は、子供向けの漫画と大人向けに久留米藩の資料や絵図をもとに詳細に説明する形になっている。内容は 1710 年春の大旱魃による災害から床島堰を構築し、工事に関わった中心人物を 1925 年に大堰神社に祭神として祀られるまでの話である。筑後川旧御井郡（大刀洗町、久留米市と小郡市の一部）は灌漑ができず、たびたび旱魃に見舞われていたこと及び地形的に大堰校区近傍の筑後川から水を引いて用水路を設けるしかなかったが、用水路を造ることで潰れ地が出る村、水害を恐れる村など合意形成が難しい中、久留米藩と庄屋を中心に工事を進めて完成にいたった経緯が説明されている。

完結編では大堰校区が、水害が発生しやすく、灌漑が必要な土地であること、水害の恐れなどを理由に反対する集落がある中で灌漑施設として造られた床島堰・用水路の歴史がわかるようになっていた。

4. 2「故郷おおぜき」の工夫点

ヒアリング調査から、「故郷おおぜき」における工夫点が 3 つわかった。

1 点目は、冊子に掲載する写真の選定である。校区住民と 28 水に学ぶ会それぞれが冊子に掲載する写真を選んでいた。こうすることで冊子に掲載する写真を客観的に選定でき、かつ会としても今後に残したい写真を選定できた。

前者の方法として、大堰交流センターに展示する 28 水に写真に番号をふり、期間を設けて校区住民に大堰交流センターに来てもらい、冊子に掲載する写真を選ぶアンケートを実施した。初巻の 28 水と今日の写真を比較するための写真は住民のアンケートで掲載したいとの票が多かったものを順番どおりに掲載することにしたという。後者の方法としては、ボランティアが活動する写真を 28 水に学ぶ会が選んだ。28 水のボランティア活動は、校区内外の者が協働し、家屋の片付け、救援物資の配布、堤防復旧工事まで幅広く行われた。家屋が被害を受けたにも関わらず、悲壮感なく仲間同士笑顔で映る大堰復興青年団や他自治体の金島青年団による活動などを後世に伝えるべきと考えて選ぶことにしたという。

2 点目は、28 水体験談の掲載方法である。初巻と続編は水害発生前、水害発生時、水害後の順で構成され、28 水の河川水位の状況や避難行動などの水害対応がわかりやすく整理されている。また、続編では体験者の話を自然な形で後世に残すために、編集者が初巻のように短く要約せず掲載したという。そのため 1 人当たりの体験談が長くなっている。

3 点目は完結編において床島堰と用水路の歴史について子供向けと大人向けの両方を掲載したことである（図 3、図 4）。とくに、漫画は、大刀洗町ふるさと案内人と連携し、大堰交流センターに遊びに来る子供たちに右から読むか左から読むかなどどのようにしたら読みやすくなるか確認しながら制作をすすめたという。



図 3 「故郷おおぜき」完結編の床島堰物語（漫画）¹³⁾

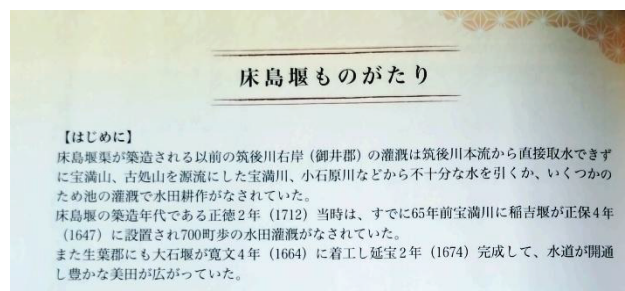


図 4 「故郷おおぜき」完結編の床島堰ものがたり¹⁴⁾

5. 28 水に学ぶ会による伝承活動

28 水に学ぶ会による伝承活動は、主に小学生に対して総合学習の中で行われている。内容としては、4 年生が床島堰・用水路の歴史に関すること、5 年生が 28 水と昨今の水害に関すること、6 年生が水のめぐみと校区の発展である（表 2）。方法として、C 氏が小学校から希望をとり、28 水に学ぶ会の主要メンバーである A 氏と B 氏、ふるさと案内人が冊子「故郷おおぜき」をもとに学習用プリントを作成し、授業での説明や現地見学に同行する。4 年生と 5 年生には毎年、6 年生には不定期で行っている。活動を始めた当初は冊子「故郷おおぜき」を使っていたが、説明のたびにページをめくる必要があり、途中から説明箇所が簡単にわかるようにするために学習用プリントを作成したという。

4 年生には、床島堰・用水路の歴史を学んでもらう。主には床島堰と用水路を見学し、大堰神社にて大刀洗町ふるさと案内人が床島堰物語の紙芝居を行い、床島堰・用水路の歴史を伝える。最後に、参加者全員で歌詞に床島堰が入る大堰小学校の校歌を斉唱する。

5 年生には、28 水と昨今の水害について学んでもらう。主には大刀洗町のバスを使い、床島堰に近い三井方面（床島・高食・鳥飼）と小石原川に近い西原方面（西原・富多）の方面を 2 日間かけて回る。冊子「故郷おおぜき」に掲載されている、28 水の爪痕が残る複数の住宅を訪問し、28 水体験者から体験談を聞くことや当時使った木の舟などを見る。バスには A 氏や B 氏が同行し、その都度 28 水とその後の堤防整備、昨今の水害などの説明を行う。28 水体験者の話として、「当時中学生だったが、収穫したムギが水につかる恐れがあるため、1 俵を家屋の 2 階にあげた」などが聞けるという。また、活動を始めてから校区内でも 28 水でとくに河川氾濫で被害を受けた三井方面の集落と西原集落を中心に住宅を訪問し、体験談を聞いていたが、堤防の決壊寸前で被害を免れた守部集落や、用水路が決壊してそれに対応した富多集落の体験談も重要と考えて、2024 年からは 28 水の被害が少ない集落も回り、体験談を聞くことにしたという。

6 年生には、水のめぐみと校区の発展について学んでもらう。5 年生で水害を学んだ時に河川への恐怖心を感じる生徒がいる。一方では、河川があることで、豊かな農産物がとれて校区が発展してきた歴史がある。河川に行き、写真を撮る、笹舟を作って浮かべるなど河川と親しみ、校区における水のめぐみを感じてもらおうようにしているという。

小学生の授業における伝承内容は、4 年生には江戸時代に造られた床島堰・用水路、5 年生には 28 水と昨今の水害、6 年生には水のめぐみと校区の発展という、水害を中心としながら時系列で郷土の発展がわかるものであった。なお、冊子「故郷おおぜき」は大堰校区全戸に配布してお

り、小学生に限らず、校区住民は 28 水の被害や当時の体験談がいつでもわかるようになっている。

表 2 28 水に学ぶ会による小学生向けの活動

学年	内容	頻度
4年生	床島堰・用水路の歴史に関すること	毎年
5年生	28水と昨今の水害に関すること	毎年
6年生	水のめぐみと校区の発展	不定期

6. まとめ

本報では、大刀洗町大堰校区の水害伝承活動をヒアリング調査及び冊子「故郷おおぜき」より把握し、小学校区で災害伝承活動を取り組むための基礎的な知見を得ることを目的に取り組んできた。

大堰校区では、28 水に学ぶ会が冊子「故郷おおぜき」を作成し、全戸配布するとともに、小学生の授業において水害伝承活動に取り組んでいた。この取り組みは、28 水の出来事を後世に残したいと立ち上がった 28 水体験者 A 氏や B 氏と、28 水未体験者ながら水害に関心を持ち、28 水害体験者と学校をつないだ C 氏の存在が重要な役割を果たしていた。冊子「故郷おおぜき」は、28 水を基本としながら、床島堰・用水路の歴史を含む郷土の水のめぐみと禍の歴史になっていた。28 水の内容は、家屋に 28 水の爪痕（浸水痕）が残る住宅や当時使った物（舟など）、ボランティアなどの写真、体験談であり、校区の住民に写真を選定してもらうことや、体験談を水害発生前、発生中、発生後の時系列で掲載するなど工夫がみられた。また、床島堰・用水路の歴史では大人向けと子供向けのどちらも作成し、子供向けには漫画を用いる工夫がみられた。小学生に対しては、28 水に学ぶ会が 4 年生で床島堰・用水路の歴史を、5 年生で 28 水を学べるように計画していた。

参考文献

- 1) 飯塚智哉, 畔柳昭雄, 菅原遼: 洪水常襲地域に見られる災害文化としての言い伝え・災害伝承に関する調査研究, 都市計画論文集, Vol.53, No.2, pp.108-115, 2008.
- 2) 鍋田康成: 昭和 28 年筑後川大水害の記憶, 河川, Vol.74, No.5, pp.57-62, 2018.
- 3) 門倉七海, 佐藤翔輔, 今村文彦: 発災から 50 年経過した水害被災地の記憶と備えの実態分析-1967 年羽越水害をまつりで伝承する新潟県関川村-, 地域安全学会論文集, No.37, pp.117-123, 2020.
- 4) 28 水に学ぶ会: 故郷おおぜき-あの日を忘れない昭和 28 年水害の記憶-, 32p., 2019.
- 5) 大刀洗町役場: 広報たちあらい 2012 年 8 月号, p.2, 2012.
- 6) 大刀洗町役場: 広報たちあらい 2017 年 8 月号, p.2, 2017.
- 7) 大刀洗町役場: 広報たちあらい 2020 年 8 月号, p.2, 2020.
- 8) 大刀洗町役場: 広報たちあらい 2023 年 8 月号, p.3, 2023.
- 9) 28 水に学ぶ会: 故郷おおぜき続編-あの日を忘れない昭和 28 年水害の記憶-, 24p., 2022.

- 10) 28 水に学ぶ会：故郷おおぜき完結編-床島堰ものがたり-, 38p., 2023.
- 11) 国土地理院：電子国土 Web 自分で作る識別標高図,
<https://maps.gsi.go.jp>
- 12) 国土地理院：電子国土 Web 治水地形分類図,
<https://maps.gsi.go.jp>
- 13) 28 水に学ぶ会：故郷おおぜき完結編-床島堰ものがたり-, p.9., 2023.
- 14) 28 水に学ぶ会：故郷おおぜき完結編-床島堰ものがたり-, p.14., 2023.